

第6回 総合計画審議会 議事要旨

■日 時 令和3年10月28日（木）9時30分～11時00分

■場 所 消防局庁舎4階災害対策本部室

■出席者 【委員】

高見沢実委員長

伊藤秀俊委員、岡本琳南委員、小川喜久雄委員、小原信治委員、菊地萌歌委員、櫻井聡委員、島由紀子委員、鈴木立也委員、高橋恭子委員、千葉理恵子委員、鳥澤一晃委員、宮田丈乃委員、村田範之委員、好村明理彩委員
(以上15名、50音順)

(欠席：門井秀孝委員、菊池匡文委員、北村明美委員、小泉純一委員、須藤龍一委員、相馬希咲委員、馬場亮委員、牧瀬稔委員、山本愛子委員)

【事務局】

宮川経営企画部長、中島都市戦略課長、太田主査、山中

■傍聴者 市議会議員3名 その他2名

■議事内容

横須賀市基本構想・基本計画答申案について

概 要

9時30分 開 会

(事務局)

- ・【資料1 スケジュール】について、前回6月4日の総合計画審議会からどのような意見を取り入れ、本日の答申案に至ったか、また本日の審議会後のスケジュールもお示ししている。
- ・また【資料2 基本構想・基本計画の変更概要について】ご説明する。

～ 資料1、2に沿って事務局から説明を行った ～

(事務局)

- ・「10月1日付の事務連絡をもとに新たに頂いた意見」2つについて、この後、ご議論を頂きたい。
- ・また【参考資料 パブリックコメント手続結果について】をお配りした。こちらは、頂いた意見について、市と市議会特別委員会で議論を行い、意見に対しての考え方を整理した。この内容で11月に公表予定である。

(高見沢委員長)

- ・説明の中であった資料2の1番「10月1日付の事務連絡をもとに新たに頂いた意見」ということで2つ挙がっていた。これについてご議論頂きたい。その他資料2の2番、あるいは質問でも結構なのでご意見頂ければと思う。
- ・事務局に伺いたいのが、審議する1番の2項目。どう議論したらよいか、1点目は「変化を力に進むまち。横須賀市」と書いてあり、パブコメもした。しかし、10月1日の事務連絡に対して意見があった。2点目の方は、現状では前半に書いてある文章になっているが後半のように書きかえたいということか。

(事務局)

- ・その通り。

(高見沢委員長)

- ・では、良い悪いなどを言って頂き決めていきたいので、ご意見をぜひ。

(小原委員)

- ・1つ目について、私が今さらながらにクエスチョンマークが出たので書いた。コピーだけが独り歩きするのではないか。全部を読めば、変化を追い風にして希望ある豊かな横須賀を目指してということになると思う。ただ、コピーだけが独り歩きした時に、どこを目指して、何のために進むのか、なぜ進まなきゃいけないのか、今ひとつ分からない。成長するのかわからないのかとか、進まなきゃいけない

のか、置いてかれる感じがする人もいるのかなとか、少し凡庸としている感じがあり、まちの主体性がもう少し感じられる言葉がないか。変化を追い風に進むって、受け身な印象が若干あり、何かもう少し主体性が見える、横須賀市はどこを目指して、こういうもののために進むという意志が感じられるものがあると良いという印象を持ったので、皆さんがどう思われるか伺いたく提案した。

(高見沢委員長)

- ・皆さんがどう思われるかということだが、何かあるか。

(千葉委員)

- ・何の変化なのか。変化の種類というか具体性に引っかかるのではないか。未来への変化なのか、現在の進化なのか。全文読めば分かるがタイトルだけをインパクトとして考えると、色々な変化の種類があるので、具体性の部分を表示するのもひとつと感じた。

(好村委員)

- ・「変化を力に進むまち。横須賀市」というのは悪くないと思っていたが、「よりよい未来に向かって進化し続けるまち」とかそういったほうが耳障りは良いのではないかと思った。

(高見沢委員長)

- ・他の言葉も出たが、どちらかという読んでみれば分かるけど、どんな変化か見えにくいといったこと。事務局の方で、こうしようと思っているとか、受けとめのご発言をお願いします。

(事務局)

- ・変化を力に進むということで、言葉としては普通な感じもするが、皆様言っていたように中を読めば分かるというものもある。特に、この中間の部分に書いてある人口減少やテクノロジーの変化といったことを踏まえると、またコロナということも影響しているが、先が見えないこういった流れの中で、やはり変化というのはスピードも速いというのが我々の認識にあって、その中では、これをしっかり受けとめて次の時代へ立ち向かっていく。変化を力にということで、分かりづらさというよりは言葉は凡庸ではあるが、これには強い意志を持って書いている。

(高見沢委員長)

- ・言葉なので、例えば市長が百回、千回言い続けるとか、どういう意味かというのを伴いながら定着していくものだと思う。何か具体的に表現の仕方とかで工夫する余地はあるか。

(事務局)

- ・言葉はそのまま使わせて頂きたいが、成果物のデザイン、ビジュアル、これが実際に目に入ってくるものなので、頂いたご意見をこの言葉とともに未来がイメージできるデザインになるよう成果物作成の段階で心がけていきたい。

(高見沢委員長)

- ・手続き的な話になるがパブコメもすでに終わっていて、今から変えるとなると、もう1回、そのためにパブコメをしなくてはならない。むしろ感覚的には、より良い言葉に書きかえるというよりも、この言葉がさらに生きるように、みんなで応援していく、自覚して定着させていくというのが望ましいと思うが、いかがか。

(小原委員)

- ・見せ方は大事だと思う。本当に言葉だけが独り歩きすることになると思うので、その時に誤解されないように、ちゃんとこちらの伝えたい意図が伝えられるような見せ方や伝え方を工夫していかれると思うので、そこだけ理解頂けたらと思う。

(高見沢委員長)

- ・人によって捉え方が違う。この場の委員は分かっているが、初めて見た人は分からないということもあると思うので、説明や表現をちゃんとして頂ければと思う。

(事務局)

- ・やはり見た時にそういったことを感じられることもあると思うので、ビジュアルや見せ方についてはしっかりとやっていきたい。

(高見沢委員長)

- ・2点目については、私が言った。日本語が分かりづらいので、下の方に書きかえたいと思うがご意見はあるか。
- ・1点目とレベル感が違うが、ご異論なければこのように修正したいと思う。

(高見沢委員長)

- ・その他、何でも結構だがご意見はあるか。
- ・私からは審議というわけではないが、パブコメについて。たくさん市民の方から意見が出て嬉しいと思う。別の自治体で都市計画マスタープランのパブコメをしたところ意見が0人だった。今回はどんな広報をして、担当としてはどんな手応えで、どう受けとめたか、ざっくりした話で構わないので教えて頂きたい。

(事務局)

- ・ホームページ等で広報するとともに、市内の高校や関連する大学に周知を図り、これだけのご意見を頂くことができた。本市の他のパブリックコメントと比べても、かなり多くの意見を頂き、また内容についても色々な角度からの意見で、反映できるものはできる限り反映した。

(高見沢委員長)

- ・先ほどの0人というのは、担当者としては変な意見が出ないようにと思う面もあるかと思う。
- ・「変化を力に進むまち。」というのもパブコメを通して周囲の方々に認識してもらい、おかしければ意見をもらって、「おせっかい」については意見も出ていたが、そういうコミュニケーションを通してだんだんと定着していけば良いと思う。

(小原委員)

- ・パブコメを読み、明記した方が良いと思ったことで、97番にペットと暮らしやすいまちということが書かれている。私はペットを飼ってはいないが、命を育てたりすることは子どもに限らず、ペットもそうで、それを幸せに感じる方がいるのも当たり前になっている中で、そういった生き物との共生ということに特に触れていなかった。また、子育てや教育で気になったのが、子育てすることが成長する喜びというが子どもに限定されてることが果たしていいのか。子どもが嫌いな人や子育てしたくない人もいて、ただペットを子どもだと思える人もいて、そういう広い意味での命という中に人間以外の生き物についても許容されているべきではなのか。保護動物といった話もあるので、自治体が出すものの中には含まれていた方が良いのではないか。

(高見沢委員長)

- ・「貴重なご意見として承ります。」というように応えているが、その背景について教えて頂きたい。

(事務局)

- ・頂いた意見では具体的に犬などを書いてあるが、そういった共生というのは非常に大切だと思う。また所管の担当部にもパブコメの内容は伝えている。ただ、市の全体の未来像に入れるというのは難しいと思っている。またデザインの話になってしまうが、動物と人間が共生しているような未来の姿をデザインの中で、こういう未来をイメージしていると入れていきたいと思う。

(高見沢委員長)

- ・その他、何かあるか。よろしいか。
- ・では、横須賀市基本構想・基本計画の答申案についての審議を終了させて頂く。

(高見沢委員長)

- ・続いて【資料3 答申案かがみ文】について、これは市長に答申する際のかがみ文。私と高橋副委員長で相談し、皆さんのお手元にある形になった。この文章を持って市長に答申を行いたいと思う。
- ・文章は簡潔にして、市長との会話の中で、審議会ではこのような話があった、熱心にやってきたと伝える。先ほど話にあったように「変化を力に進むまち。」については色々な意見が出たので、定着するようにお願いしたい。
- ・文章としてはこのような感じでよろしいか。

(村田委員)

- ・括弧の中「変化を力に進むまち」の後に「。」句点は入るのか。

(事務局)

- ・句点が入るのが正式なもの。

(高見沢委員長)

- ・この句点は、どのような意図で書いているのか。

(事務局)

- ・「変化を力に進むまち。」なんだと言い切る。言葉の力強さを示している。

(高見沢委員長)

- ・では、句点を入れた形で今回議論した答申案を確定し、総合計画審議会からの答申とさせて頂き、後日、私から市長にお渡しする。

(高見沢委員長)

- ・ 審議はこれで終了だが、せっかく集まって頂いたので一言ずつ、できれば「変化を力に進むまち。横須賀市」という観点に沿って、難しければこの会に参加した感想でも、また、出来上がったものを基にこんな関わり方をしたいといった宣言でも、何でも結構なのでご発言頂きたい。

(櫻井委員)

- ・ 審議会に参加させて頂き、かなり活発に、それぞれの立場で色々な意見が出て、横須賀愛が感じられた。パブリックコメントで多岐にわたる意見が集まったのも、横須賀が好きという市民性を感じた。
- ・ 「変化を力に進むまち。」という言葉は、コロナがあり様々なところ、例えば教育にしても皆さん変化を感じていると思う。変化というのは、捉え方が様々ではあると思うが、繰り返しみんなが耳にすることでそれぞれが変化を考えていく、それを力にできるという意味で「変化を力に進むまち。」というのは、私は個人的にはとても好きだ。

(千葉委員)

- ・ 30 数年、ITの世界でITの進化を見てきた私にとって、Society5.0 を迎えるこれからのITを含め、教育、色々な分野で、すさまじい変化を楽しみにしながら、人間の私たちが横須賀市民としてどのくらい追いついていけるのかという不安を抱きながら、この会話を聞いていた。やはりITの世界の中ではすごい進化、近未来に色々なことが起こり得るのではないかと仕事をしているので、先に先にと色々な情報、海外の情報を取りながら、うちのスタッフたちも研究開発に取り組んでいる。その中にいるとどうしても人間本来の持っている力、目に見えない力、五感、体感というものを失いつつあるので、こういう会に出させて頂き、改めてテクノロジーの外の人間の大事にしないではいけないものを頭では分かっていたが、横須賀市としてもそれをすごく重要視されているということを感じさせて頂くことができた。私も横須賀に生まれ育って、横須賀大好きな一人なので、自然と人の温かさを上手くこれからのITとか人間の作り出したもの、データ、情報と融合させることを望んでいる。

(小川委員)

- ・ 私は横須賀市連合町内会という立場で参加した。今後のコミュニティの形成は、活動内容の基本的なところは変わっていかないと思うが、やはり何か変化させないと、変化させるというのは、結局、町民自らが主体的にならないと、こういう計画は実効性がないと思う。支えていく主体は町民であるわけだから、そのところをどう変革させていくか、そこは非常に課題としてのしかかってきた感じがする。
- ・ 例えば横須賀市で広報誌を出しているが、町内会に入っていない人には届いてい

ないという状況があるので、少なくとも広報誌ぐらいは全市民に届くような手立て、そういう細かいところもやっていかないと、こういう計画自体も宙に浮いてしまうので、地に足の着いたものになっていかないのかなという感じがする。

- ・こういう課題を解決するには、市民一人ひとりが本当に自分で横須賀を良くしていこうという気持ちにならないとなかなか進まないのかなと。そのところをどうやってコミュニティの中で作り上げていくかということ、課題として自分は考えている。

(島委員)

- ・審議会に参加し、私自身とても良い経験をさせて頂いた。横須賀に色々な形で携わっている委員の方々がこういった形で集まり、私も直接意見を聞くことができ、非常に有意義な審議会だったと思う。
- ・手続きを見ると、議員の方、市の職員の方が取りまとめ、それを学校や市民の方への意見交換と、非常に幅広い意見を取りまとめた出来上がったこの内容というのは、素晴らしいなと個人的にも感動した。ぜひ、こういった形で横須賀が変化して、それで力になっていければと思う。
- ・私は業務上、今後も横須賀市で仕事をする事になり、これに基づき横須賀市が様々な計画、事業を進めていくと思うので、今後とも携わって、この形が出来上がるように協力していきたい。

(菊地萌委員)

- ・今までは国際的な面でしか、横須賀市に関わり考えることがなかったが、今回の審議会でも、毎回違う視点から横須賀市のことを考えることができ、改めて横須賀のことを知ることができた。この「変化を力に進むまち。」というのは、皆さんが言っていたように、変化は色々な捉え方ができると思うが、色々な捉え方ができるからこそ、中身には色々な変化というパーツパーツが含まれていると思う。この言葉を見て、どういう変化なのだろうと思った人たちが中身をちゃんと見てくれて、それに伴って、他の面にも目を通してくれたら、もう少し横須賀のことを考えてもらえるんじゃないかなと思う。私はこの文章すごく好きなので、このまま色々な人に横須賀を知ってもらえるようにしていけたらなと思う。

(鈴木委員)

- ・4、5年前、私たちが民生委員で全国大会に行った時に「人情のまち横須賀」というような話が出て、横須賀はなかなか良いということで、私もびっくりした。福祉の事に関しては、横須賀市は進んでいるのではないかと自負している。
- ・これからも、あまり難しいことだけではなくて、おせっかいをどういう風に持つていくかということ、それから、中学生高校生のこれからの横須賀をどうしたら良いかという意見を出して、それと同時に70歳80歳の人たちが、横須賀のこういうところをこうしていくと良いというような、子どもと高齢者の意見を聞いて

いくと面白いものが出てくるのではないかと思う。

- ・計画の中身は今日見ても、どこにも文句のつけようのないような出来だと思う。

(宮田委員)

- ・審議会に参加し、改めて横須賀市のまちづくりの姿勢を学ばせて頂いたということは、大変良い経験となった。
- ・街に目を向けると、横須賀に根付いている人々の暮らし、そして人々との絆、助け合い、人のぬくもりなど折に触れ感じていたが、この計画の実現を目指して、新しい時代、特にIT教育、社会の中で、若者が新たな時代を作ってくれるのではないかということを感じつつ、すべての市民が自分らしく生きられる、生活できる社会が実現できたらという希望を持っている。
- ・今関わっている幼児教育の中で、子どもたちにこの街をたくさん探索したり様々な体験を楽しみにしながら、横須賀のまちづくりを見て聞いて触れてという五感を通して考える、科学する心を養って、未来を作って頂けたら有難いと思う。「変化を力に進むまち。」という中で、今回の計画に対する意見を学生からもたくさん頂いていて、その学生が成人した時に、自分が考えたことが実現できるという楽しみを持って横須賀のまちづくりをみんなで支えてくれたらいいなと思う。

(岡本委員)

- ・私からは市民公募委員として感じたことを2点お話する。
- ・まず1点目。まちづくりで描いていく未来は誰が主体となって決めるのかということが、最初に委員として参加した時から自分は疑問に思っていた。例えば、市長が掲げるビジョンに沿って作られているのか、あるいは市役所の方が作ったものをブラッシュアップしている感じなのか、それとも一から委員が意見を出してやっていくのかと思っていたが、すごくバランス良く委員としての意見を聞いて頂いたり、専門家の方や実際にまちづくりに関わっている方のご意見も聞くことができ良かったと思う。ただ、一市民としては市の未来はみんなで作っていくものだと思うので、ワクワクしてそういうことが語れる時間が今回の審議会を通してもう少しあっても良かったと思う。審議会の場に限らなくても、もっと横須賀に住んでいる色々な人に横須賀市というのを自分の事として語らせるという経験など、そういうことがもっとあってもいいんじゃないかと思う。これは、審議会を外れてというふうになるかと思うが、ここに向かっていきたいとかビジョンをみんなで共有するのはすごく大事なことなので、それがまちづくりという大きな規模になったときにどうやっていくか、一企業や一団体がやる以上に難しいことだと思う。でもそれを実現しないと、自分たちが向かっていきたい未来により多くの人を巻き込んでいくということはできないし、逆にそれができたらすごく魅力あるまちになっていくと思うので、今後はぜひ市が向かっていきたい場所をしっかりと共有して、そこに向かって色々なアクターが頑張る続ける、そのビ

ジョンの解釈はそれぞれでいいが、一つのことに向かっていくというのを共有できたらいいんじゃないかと思う。

- ・2点目は、私が公募委員として気をつけていたことだが、学生で19歳なので、若い人の意見をしっかりと市に届けたいと思っていた。これは上地市長が以前、若者には厚い壁を打ち破ってきてほしいということをおっしゃっていて、その時に、厚い壁を作っているのははたして誰だろうと、そのエネルギーを蓄えていくというのは若者が勝手にやらなくてはいけないのか、自分たちの声を届けたいという若者がいたとしても、その人たちが実際にそれをする原動力というのを、自分たちだけで得るのは難しいという状況が今横須賀にはある。少なくとも若い人として、横須賀市に貢献したい横須賀市をもっと良くしたいと思っている人がいるんだということを、市に伝えればと思い、そうやって実際に活動しようとする人がいるんだというのを他の若い人たちにも知ってもらって、より多くの若い人たちがさっきのビジョンと一緒に向かっていけたらと思う。引き続き、私も横須賀市に何かできることがあればしていきたいと思う。

(好村委員)

- ・初めてこのような場に参加させていただき、色々な立場から意見を集め話し合い、こういう風にまちを作っていくんだなと思った。将来「変化を力に進むまち。横須賀市」というのに力添えができるよう、今後も学びを深めていけたらと思う。

(伊藤委員)

- ・皆様からご発言があった通り、本審議会の議論、パブコメのご意見等、本当に多様なご意見を拝聴できる機会、自分自身横須賀市をより深く知るとてもいい機会になった。お礼を申し上げたいと思う。
- ・Y R P推進協会といった立場から申し上げますと、本答申案に横須賀市の社会課題の解決や新しい産業の創出といった観点、また行政の効率化の観点からICTを積極的に取り上げていくべきだといったことが全般的に記載されている。ICTだけではなく環境の変化が起こっている中で、そういった変化を個々にも上げつつ、全体の変化にどう対応し、それをきっかけに新しい横須賀市の発展に繋げるといったことで、この「変化を力に進むまち。横須賀市」というのは個人的には、非常にいいキャッチフレーズでうまくまとめられたものでないかと思う。今後の社会実装や研究開発について、私どもとしても貢献させていただきたいと思う。

(村田委員)

- ・本審議会、パブリックコメント、若い世代のご意見等をいただき、それぞれが受け身でない自らの事として考えているということで、非常に頼もしく感じた。横須賀の将来が非常に楽しみだ。
- ・J A M S T E Cの職員としては、改めて海洋研究に対する夢や期待を感じた。引き続き期待に添えるよう努力していきたいと思う。

(小原委員)

- ・私には、横須賀市で生まれ育ち5歳になる娘がいるが、その娘が2030年になった時にこの冊子を手紙として読んで、このまちに生まれて良かったと思ってもらえるものを作ればという思いで参加させて頂き、中身としてはそこに沿うようなものにまとめたのではないかと思う。皆さんのお力に感謝している。
- ・一方、私はテレビやインターネットなど、大きなメディアに作品を発表する仕事をしていて、一度発表すると、こんな所からこんな意見が来るのかという心無い矢がたくさん飛んでくる。そのネガティブチェックを日々やっているからこそ、それがすごく働いてしまい、ひっくり返すようなことを言う。最後までビジュアルも含めてネガティブチェックをした上で発信すると思うが、本当におかしな所からの矢で足元をすくわれることが、役所が出すものは多々あったりするので、このコピーもこういうこと言われるだろうなというのいくつも浮かぶものがあり、この場では言わないが、何か言われた時も、そうじゃないんだということがちゃんとと言えるような理論武装とビジュアルも含め最終チェックをやっていたらと思う。

(鳥澤委員)

- ・長い時間をかけ、膨大な意見を受け止めながら、取りまとめた事務局の苦勞には、頭が下がる。最終的には非常に良いものが出来上がったと思う。また、これに参加できたことを誇りに思う。
- ・横須賀市の他の会議の仕事もしているが、他の委員からも話があった通り、非常に意見が活発に出る会議で、私も大変勉強になった。大学があるのは隣の市だが、非常に横須賀市に愛着が湧き、ここに住んでいる方や働いている方が横須賀市を愛しているということがひしひしと感じられて、今後も機会があれば、よりいっそう横須賀市のことを知りたいと思った。
- ・小原委員からネガティブチェックの話があり、そういう考え方もあるなと思ったが、パブリックコメントが147件で、多数のご意見が市民の方から上がっているということで「変化を力に進むまち。」というのが受け身ではなくて、むしろ市民の方が自分たちで動く勢いが、元々あるまちなので、ネガティブに捉えてしまいがちなコピーでもあるかもしれないが、そこは特に心配しなくてもいいのかなと私は感じた。この基本構想・基本計画がより具体的になってまちづくりに反映されることを期待している。

(高橋委員)

- ・皆様のご発言にあった通り、この会議では熱心で様々な立場の方からのご意見が出ており、色々な議論があった中でこのような形にまとまったということで、参加させて頂き大変に勉強になった。
- ・パブリックコメントも多数寄せられていることなども含めて、櫻井委員がおっしゃ

っていた横須賀愛というのを、ひしひしと私も感じた。

- ・改めて出来上がったものを見ると、未来に向けて新しいわくわくした感じが伝わってくる、とても訴えかける力がある内容だと思う。これが実行力のあるものになっていくことを願っている。
- ・横須賀の大学として来年で20年になるが、こういった場所で大学を運営し、学生たちも教育を受けていて、改めてこの横須賀の素晴らしさを感じた。今後も地域の皆様と連携して、大学としても何か地域に貢献できることを続けていきたい。

(高見沢委員長)

- ・最後、私から感謝申し上げます。答申案の6章資料編を見ると、この審議会のメンバーが載っている。各方面の代表の方から色々な意見を受け、刺激的で楽しくやらせて頂いた。非常に良い会だったと思う。
- ・続いて61ページを見ると、基本構想・基本計画策定特別委員会では14回、我々の倍以上議論されていて、このような取りまとめに至ったということで改めて感謝申し上げます。
- ・さらにワークショップやアンケート、パブリックコメントで多くの各層の市民の方を巻き込んでこの計画になったんだと改めて思う。
- ・65、66ページのYOKOSUKAビジョン2030プロジェクト会議というのは、どういったものか、事務局から解説頂きたい。市役所の中の検討組織か。

(事務局)

- ・これはおっしゃる通り市役所の若手、中堅の職員を集めた会議。各課の持つ課題から2030年の横須賀がどうあるべきかを語り、そこからどういうことをやっていくかをバックキャスティングで議論してきた。そのようなことに市役所職員は慣れていないこともあり、みんな苦勞していた部分もあったが、このプロジェクト会議を通じて、より未来を見据えて市民のためにどうあるべきかを考える機会になったという意見もあった。そういった意味で、この策定を通して職員も成長できた。

(高見沢委員長)

- ・若手、中堅の方がバックキャスティングで10年後を語るわけだから、自分の仕事そのもの。そういう意味で力になる仕掛けで、我々の議論とは別に市役所の中でも考える機会があつて良かったと思う。
- ・最後に「変化を力に進むまち。」について申し上げたい。皆さんにこの言葉に沿ってご発言頂き、全てが希望に満ちたというわけでもなく、課題もありそうだが、「変化を力に進むまち。」という課題を掲げることで、私自身もこれを見るとやらなきゃいけないなと感じる。市民の方もこれに接する度にそう思うと思う。場合によっては誤解になりかねないという話もあったが、ちゃんと議論してどういう意味だと、あるいは、私は何ができるかをその都度確認しながら、これをビジ

ョンとして進んでいく。ありありと湧き上がってくるような力を感じる。私は、横須賀の外の人間だが、横須賀に感じるのはそのような力、色々な面で横須賀のまちは、まさにこのような力が出てきているまちで、このようなビジョンを掲げることにより、苦難があっても、色々な資源や得意技を総動員してやっていけそうな気がしてきた。

- この熱気そのものも含めて市長にお伝えしたいと思う。皆さん長い間、ありがとうございました。

(高見沢委員長)

- ・最後、事務局から何かあるか。

(事務局（経営企画部長）)

- ・事務局を代表して、私からご挨拶させて頂く。本日を含め、皆様からはたくさんの意見、また横須賀に対する熱い思いを頂き、感謝申し上げます。委員長、副委員長においては、たくさんの意見が出る中、取りまとめ集約して頂き本当にありがとうございました。
- ・皆様には足かけ2年携わって頂いた。この横須賀市基本構想・基本計画は市の最上位の計画で、当然、市の職員もさることながら、市民の皆様とも10年後の横須賀の未来を描いて共有して、これから先、進めていく大事な計画だと思う。
- ・振り返ると策定に関しても、これまでとは違う作り方をしていこうという我々の思いもあり、市議会の皆様からもご協力頂き、先ほど委員長からもお話があったように14回も議論を重ね、市議会とも一緒になって策定してきた。
- ・また、コロナ禍という状況の中で、市民の皆様とはリモートで会議をしたり、中学校や高校には出向いて話をしたり、パブリックコメントではたくさんのご意見を頂いた。変化という話もあったが、今まで通りではなく事務局としても変えたという思いがあって、このような計画に至った。
- ・これについては、市議会からも評価頂き、本日、委員の皆様からも良い計画だと評価してもらい、本当に良かったと思う。この計画は作って終わりではなく、このビジョン、この横須賀を実現していくのが我々に課された使命だと思っている。本当にありがとうございました。

11時00分 閉会

(以上)